

# テキストマイニングによる高校制服着用時の感情の可視化

孫 珠熙

## Visualization of Students' Emotions When They Wore High School Uniforms: A Text Mining Approach

Ju-hee SOHN

### Abstract

This study focuses on the influence of school uniforms on the wearers' emotions and behavior from the perspective of clothing psychology. University students were asked about how they felt when they wore their school uniforms in high school.

(1) "Regulations on school uniforms": The regulation that left the strongest impression on female students was the one on skirt length while for male students it was either the one regarding the number of buttons they were allowed to leave unfastened or the one on how to wear their trousers.

(2) "What they did to express their individuality when they were in their uniforms": They used brightly-colored fancy goods or changed their hair styles because their school uniforms were mainly dark in color, such as black and dark blue.

(3) "Their impressions on school uniforms": Mostly negative, such as "tacky," "old-fashioned," and "plain." Female students evaluated school uniforms lower than their male counterparts, showing that they were dissatisfied with their uniforms.

(4) "How they felt when they went to school": Many students felt school uniforms made things easier because, unlike the case of ordinary clothes, they do not have to wonder what to wear. School uniforms are also considered as an important piece of clothing for high school students because they help students get into a proper mindset, bring a positive sense of tension, and help them develop a feeling of belonging.

キーワード：制服, 感情, 高校生, テキストマイニング

keywords : school Uniforms, emotions, highschool students, textmining

## 1. 緒言

服装について、着装者はさまざまな感情を持ち、周囲の人も着装者にさまざまな感情を抱く。実際の場面においては、例えば着装者の年齢・体型、どのような場面で着ているかという着装場面の要因と、服装の種類・デザイン・色などの衣服の要因が総合的に影響し合ったものとして感情は生じていると言える<sup>[1]</sup>。最近の被服学は「ものとして、心としての衣服<sup>[2]</sup>」など、質の高い持続可能な生活を築くために、衣服を心として捉える傾向がある。また、快適性に関して最近の被服分野の教材では、安定したストレスのない状態(Comfort)としての快適性と、心理的な好ましさも含め、価値観との綜合作用として生まれる社会・文化的な積極的快適性(Pleasure)がある<sup>[3]</sup>とし、心を重視している傾向がみられる。

一方、従来はアンケート調査での生の声の自由記述は解析しにくかったが、統計学手法の発達により、現在では自由記述も客観的に解明できるようになった。そこで、本研究では被験者に高校制服着用経験について、自由記述方式で書いてもらい、それを統計学的手法で分析した。

現在、約8割の高校が制服を指定している。制服にはどの高校に属しているかが一目で見てわかるという、ノンバーバルコミュニケーション(非言語)による情報伝達の役割があり、制服を着ているときの生徒の服装行動には、人と同じ着装を守ろうとする同調性と自分らしさを表現したいと思う自己表現欲求が共存する。制服に対する印象は肯定的な感情と否定的な感情が両方あるように思われる。

また、感受性の豊かな思春期の高校生は、周囲の生徒と同じ格好をすることになっても、厳しい校則の範囲で、何とか自分らしさを表現しようとしてい

ると考えられる。

これまで北陸地域（富山・石川・福井）では制服着用時の感情に関する研究はほとんどなされておらず、先行研究はあまりみられない。また、高校制服の着用感情に、自由記述におけるテキストマイニング手法を取り入れた事例も見当たらない。

そこで、本研究は制服が着用者の感情や行動に及ぼす影響力に着目し、高校での制服着用時の様子について大学生に質問し、被服心理学的立場で検討を行った。制服に関する校則の厳しい中、個性を表現するために行った行動や制服の着用感情について、自由記述で書いてもらい、その言葉をポジティブ・ネガティブ的な感性用語分類を使って分析し、可視化(Visualization)した。

また、同大学生に、余暇時間の過ごし方についても自由記述で書いてもらい、テキストマイニング手法を用いて検討した。余暇の過ごし方は制服を着ている時間以外の非日常の行動を理解するために重要であると考え調査を行った。その一部は日本家政学会にて研究発表を行った<sup>[4]</sup>。

これまでの関連研究は着装場面における感情の表現用語を示したものがある。女子学生が着用する場面として、通学、学外サークル活動などの5場面について感情用語が異なることを発表し、通学に48語の感情を表した<sup>[5]</sup>。

本研究とは通学の場面、服装着用感情の観点では等しいが、本研究は自由記述をテキストマイニングにより可視化した点と男女大学生が抱く、高校時代の制服着用感情を研究にしている点は異なる。また、実施時期も20年前なので現代の若者とは意識に違いがある。

テキストマイニング(Text mining)とは文章形式のデータ（自由記述）が得られたときに、テキスト（言語・文章）をカテゴリ化（言語学的手法・頻度による手法）し、その結果を多変量解析の手法を

用いて解析する手法である。また、重要キーワードの登場頻度や、複数のキーワード間の関係を把握することができ、文章を定量的かつ視覚的に整理することが可能になる<sup>[6]</sup>。マイニング(Mining)は、採掘(Mine)することであり、言葉(テキスト)の中に埋もれている情報を掘り起して、視覚的に可視化することができる。

そこで本研究は高校制服着用時の感情（制服着用時に個性を出すためしたこと、高校制服の印象）、校則の内容、放課後の余暇について自由記述式回答を、定量的な解析から検討し可視化(Visualization)することを目的とする。

## 2. 研究方法

### (1) 調査時期と対象

調査時期は2013年7月と2014年4月の2回にわたり、自由記述形式質問紙法による調査を行った。調査対象者は富山市の男女大学生1~4年生である。調査は筆者が制服に関する講義を行った後、この話題に関する質問紙であることを説明したうえで実施した。

調査対象者を表1に示す。

- 1) 制服に関する質問内容の調査対象者は男子119名(54.5%)、女子101名(45.5%)で合計220(1回88+2回132)名の回答を得た。いずれも筆者の講義の履修者(高校生2名含む)を対象とした。調査対象者の内訳は1年生114名(53%)2年生37名(17%)3年生57名(26%)4年生8名(4%)高校生2名(1%)であった。
- 2) 余暇の過ごし方に関する質問内容の調査対象者は男子128名、女子196名で合計324名の回答を得た。調査対象者の内訳は1年生260名(80%)、2年生19名(5%)、3年生38名(12%)、4年生5名(2%)高校生2名(1%)であった。

表 1. 調査対象者の基本属性

	A 女 N(%)	A 男 N(%)	A 合計 N(%)	B 女 N(%)	B 男 N(%)	B 合計 N(%)
大学1年	66(65)	49(42)	114(53)	168(86)	92(72)	260(80)
大学2年	5(5)	33(28)	37(17)	3(2)	16(13)	19(5)
大学3年	28(28)	29(25)	57(26)	22(11)	16(13)	38(12)
大学4年	2(2)	6(5)	8(4)	1(1)	4(3)	5(2)
高校生	0(0)	2(2)	2(1)	2(1)	0(0)	2(1)
合計	101	119	220	196	128	324

A: 制服に関する調査, B: 余暇の過ごし方に関する調査

## (2) 質問紙調査の測定項目の概要

### 1) 高校制服着用感情に関する測定項目

高校時代の制服着用感情を探るために、1項目「問1. 校則に従って制服を着ていましたか」についてははい・いいえの選択で回答を求めた。

次の問2～問6までの5項目については自由記述で回答を求めた。具体的な項目内容は、

「問2. 制服に関する校則には、具体的にどのようなものがありましたか」

「問3. 制服を着る際に、個性を出すために何かしていたことがありますか」

「問4. 制服を着て学校に行く時の感情はどのようなものでしたか」

「問5. 学校が終わり帰宅して、制服を脱いだ時の感情はどのようなものでしたか」

「問6. 自分の思い出せる範囲で構いませんので、高校の制服にどのような印象を持っていたかを教えてください」であった。

### 2) 余暇時間の過ごし方に関する測定項目

高校生の生活スタイルを、平日に学校で過ごす時間に着る制服を On Time, 平日の放課後と土・日・祝日の休日の制服を着ていない余暇時間を Off Time と捉え、次の項目「問7. 余暇時間はどのように過ごしていますか」について、質問紙調査による自由記述で回答を求めた。

## (3) 分析方法

1) テキスト（言語）分析の進め方はテキスト（例えば、アンケートの自由記述）を入力し、インポート（データを読み込むこと）する。抽出方法は係り受け分析と感性分析の両方の手法を利用した。

キーワード間の意味関係を把握するために、感性度数頻度分析を行い、肯定的（Positive）否定的（Negative）な感性用語を抽出した。カテゴリ間の関係性を視覚化パネルカテゴリWebにより、文章集合からの新たな知識発見に結びつくような研究に取り組んだ。

2) 単語を抽出し、その出現頻度を類義語の整理など定量的に捉えたとえ、感性分析などの抽出された情報（単語）を基に、IBM SPSS Statistics を用いてカテゴリ化（単語化）し、01（ゼロイチ；なし・あり）データ表に作成した。このようにテキストマイニングは、データマイニングとの関係で説明されることが多い。

3) 次に自動的に出てくるキーワードの出現頻度に、類義語の整理を行い、分析者としての視点で適切な分析（Analisis）結果を得ることを目指した。どの単語が同時に使われているかを見れば、より総合的な解釈が可能となる。そのために、多重回答処理を行い、単語同士のクロス集計を求めた。

4) コレスポネンス分析により、単語の布置図グラフを作成し、カテゴリ間の関係性を可視化（Visualisation）した。データの統計解析には SPSS Statistics 22.0 を用いた。自由記述データの統計解析には、テキストマイニングツールである IBM SPSS Text Analytics for Surveys 4.0.1 を用いた。

## 3. 結果及び考察

### 3-1 校則に従った制服着用の有無

「問1. 校則に従って制服を着ていましたか」について、校則に従って制服を着用していた学生は、男子94人（79%）の方が女子64人（64%）より多かった（表2）。性別のクロス集計を行った結果、カイ二乗検定では1%の有意差がみられた（ $p < 0.01$ ）。女子が男子より校則に従っていない割合が多い理由は、女子の方がおしゃれや個性を出したりすることに興味を持っているからだと思われる。

表2. 制服に関する校則に従ったか

	私服	はいN(%)	いいえN(%)	合計N
女子学生	1(1%)	64(64%)	35(35%)	100
男子学生	4(3.4%)	94(79%)	21(17.6%)	119

### 3-2 制服に関する校則の内容

「問2. 制服に関する校則には、具体的にどのようなものがありましたか」について、カテゴリ（単語）間の関係性を調べるために多重回答のクロス集計を行った。表3は同時に登場する回数を表している。「スカート」の行に注目すると、「スカート」と「スカート」の登場回数が104となっているが、同じ単語同士の組み合わせは、単に「スカート」という単語が104回登場したことを意味している。他の組み合わせに目を移すと、「スカート」と「曲げる」(57), 「留める」と「ボタン」(67), 「しめる」と「ボタン」(24), 「リボン」と「つける」(9), 「シャツ」と「ボタン」(20)の回数が多いことがわかる（表3）。

表 3. 制服に関する校則内容のクロス集計

	スカート	ボタン	留める	折り曲げる	ネクタイ	シャツ	靴下	腰パン禁止	つける	膝丈	白	カーディガン	着る	指定	リボン	上	黒
スカート	104	41	27	57	59	12	15	3	15	17	10	13	4	8	14	9	9
ボタン	41	101	67	24	14	20	15	11	7	7	9	12	8	4	3	7	6
留める	27	67	70	16	10	15	11	5	5	4	5	6	6	1	3	5	3
折り曲げる	57	24	16	59	22	10	11	2	8	0	7	9	4	4	9	8	6
ネクタイ	29	14	10	22	47	11	3	2	5	2	2	3	2	3	4	8	0
シャツ	12	20	15	10	11	43	5	9	5	1	4	0	5	3	2	4	2
靴下	15	15	11	11	3	5	26	2	4	1	15	6	2	0	1	4	8
腰パン禁止	3	11	5	2	2	9	2	23	0	1	1	0	1	2	0	0	0
つける	15	7	5	8	5	5	4	0	21	4	2	2	1	0	9	1	2
膝丈	17	7	4	0	2	1	1	1	4	17	0	3	0	3	5	1	1
白	10	9	5	7	2	4	15	1	2	0	16	5	1	0	1	1	8
カーディガン	13	12	6	9	3	0	6	0	2	3	5	16	3	3	1	1	5
着る	4	8	6	4	2	5	2	1	1	0	1	3	16	5	0	2	0
指定	8	4	1	4	3	3	0	2	0	3	0	3	5	16	0	3	0
リボン	14	3	3	9	4	2	1	0	9	5	1	1	0	0	14	0	2
上	9	7	5	8	8	4	4	0	1	1	1	1	2	3	0	14	0
黒	9	6	3	6	0	2	8	0	2	1	8	5	0	0	2	0	14

このようにして表を眺めることで、どの単語とどの単語が同時に登場するかを把握できる。上記の表から次のような組み合わせ「ボタンー留める」「スカートー曲げる」「リボンーつける」「シャツーボタン」などが多いことがわかる。

制服に関する校則の内容については、「シャツのボタンを留める」、「スカートを短くしすぎない」、「リボンをつける」、「ネクタイをしっかりとしめる」、ことについて厳しく定められている高校が多いことが分かった。

男女を合わせた全体の上位1～5位で出現回数を見ると、「スカート」が104回(47%)、「ボタン」が101回(45%)、「留める」が70回(32%)、「折り曲げる」が59回(27%)、「ネクタイ」が47回(21%)と回答があった。また、「白」16回(7%)、「黒」14回(6%)のほかに、「紺」11回(5%)、「グレー」「茶」「ベージュ」と色に関する回答があり、靴下の色や髪の毛の色、シャツの色に関する校則もあったことがわかる(表3)。

性別(女子 N=100, 男子 N=118)ごとにみると、女子では上位が「スカート(88, 88%)」、「折り曲げる(51, 51%)」「ボタン(35, 35%)」「ネクタイ(28, 28%)」「留

める(20, 20%)」「膝丈(17, 17%)」、男子では上位が「ボタン(65, 55.1%)」「留める(49, 41.5%)」「シャツ(34, 28.8%)」「腰パン禁止(21, 17.8%)」「ネクタイ(18, 15.3%)」となった。

女子はスカート丈に関する校則、男子はシャツのボタンの数や、シャツをしっかりズボンに入れ、腰でズボンを履くことを禁止する校則が強く印象に残っていることがわかった。

### 3-3 制服を着用する際に個性を出すためにしたこと

「問3. 制服を着る際に、個性を出すために何かしていたことがありますか」について、用語の出現回数を調査し、カテゴリ化(単語化)を行い、01

変える

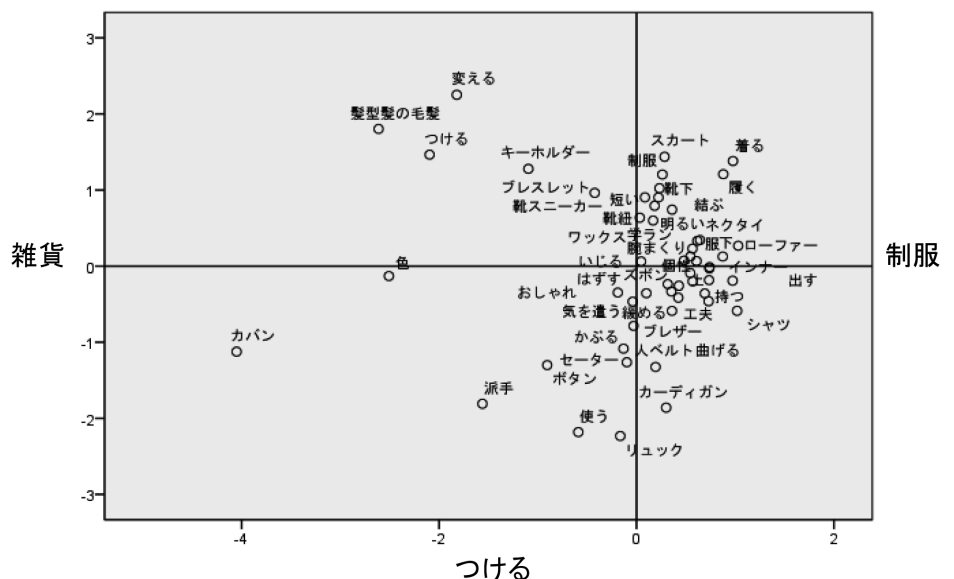


図 1. 制服着用時に個性を出すためにしたこと

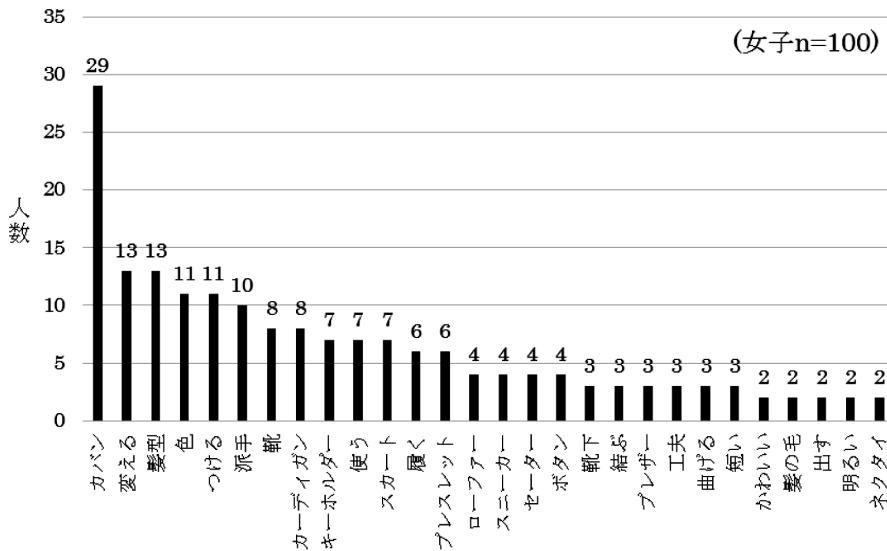


図2. 制服着用時、個性を出すために行っていたこと(女子学生)

(ゼロイチ) データのクロス表を作成した。次にコレスポネンデンス分析により、単語の布置図グラフを作成し、カテゴリ間の関係性を可視化(Visualization)した(図1)。

横軸の右側が「制服」、左側が「雑貨」、縦軸の上が「変える」、下が「付ける」と解釈した。生徒は制服や雑貨・髪型に、何かついたり、変えたりする行動をしていることを意味している。

図1の右上をみると制服を着用する際に個性を出すために、スカートを短くしたり、曲げたり、学ランなど制服そのものを変えたりしている。右下はシャツ、セーター、マフラー、ネクタイなど付けることで個性を出している。左下はカバンや靴を派手にしたり、ブレスレットやキーホルダーを付けることで個性を出している。左上は髪型を変えたり、色を変えたり、ボタンを変えるなどで他人と差をつけていることがわかった(図1)。

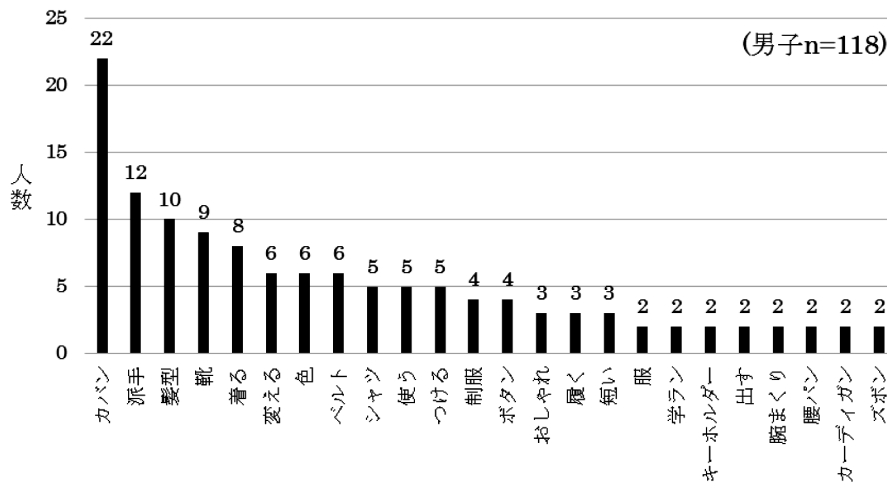


図3. 制服着用時、個性を出すために行っていたこと(男子学生)

男女を合わせた全体の上位1~5位の回答は「カバン」が51回(23%),「髪型」が24回(11%),「派手」が22回(10%),「変える」が19回(8%),「色」が17回(7%)であった。これは制服が紺色や黒色などの地味な色合いのものが多いため、カバンや靴などの雑貨を派手なものにしたり、制服の着装を変えたりする傾向が見られた。

カテゴリ化(言語化)01(ゼロいち)データのクロス

集計表より、「カバン」と回答した人は、同時に「派手」、「靴」、「使う」と回答していることから、雑貨にこだわる人はカバンも靴も派手にしていたと考えられる。個性を出すために、「髪型-変える-ボタン」「カバン-派手-色」「カーディガン-色」「キーホルダー-つける」「リュック-使う」などの行動をとっていることが明らかになった。

図2は個性を出すために行っていた行動(女子の出現回数2以上)を示した。図3は個性を出すために行っていた行動(男子の出現回数2以上)を示した。特に雑貨のカバンの出現回数(男子22,女子29)が多く、次に髪型(男子10,女子13)が共に多いことがわかる。

### 3-4 制服を着て学校に行く時の感情

「問4. 制服を着て学校に行く時の感情はどのようなものでしたか」について、全体でみると、ポジ

ティブ的用語(56回, 25.5%)は「うきうき」、「気合いが入る」、「気が引き締まる」、「楽」、「スイッチ」など、ネガティブ的用語(64回, 29.1%)は、「ださい」、「暗い」、「暑苦しい」、「嫌」、「だるい」、「気が重い」、「窮屈」、「憂鬱」などの感性用語が抽出された(図4)。

男女を合わせた全体で見ると、上位1~5位は、「楽」が49回(22%)、「面倒くさい」





「安心」4(2%)、「脱力感」4(2%)、「頑張る」4(2%)と回答があった。

### 3-6 高校の制服に対する印象

「問6. 自分の思い出せる範囲で構いませんので、高校の制服にどのような印象を持っていたかを教えてください」について、男女を合わせた全体で見ると、上位1~5位は「ださい」が27人(12%)、「かわいい」が14人(6%)、「古臭い」が9人(4%)、「地味」が8人(4%)、「堅苦しい」が7人(2%)と回答があった。

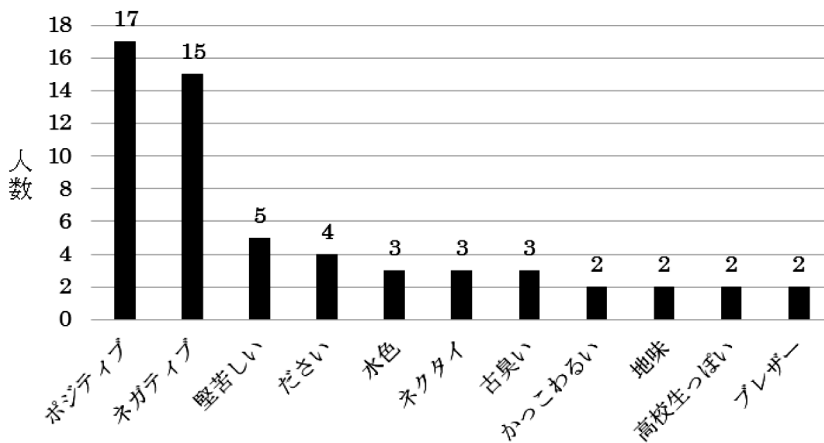


図6-1. 高校時代の制服の印象 (男子 N=118)

男子は、特に印象がないといった回答が多かった(図6-1)。これは、高校制服に関する図鑑も森伸之他<sup>[7~9]</sup>の女子高の制服を対象とした出版が多く、男子の自己表現欲求が女子ほど敏感ではないことが考えられる。一方、女子は「かわいい」、「OL」、「おとなしく感じる」など、男子には見られない回答があった(図6-2)。これは、制服の形や色、スカート丈が、通っていた学校によって異なるため様々

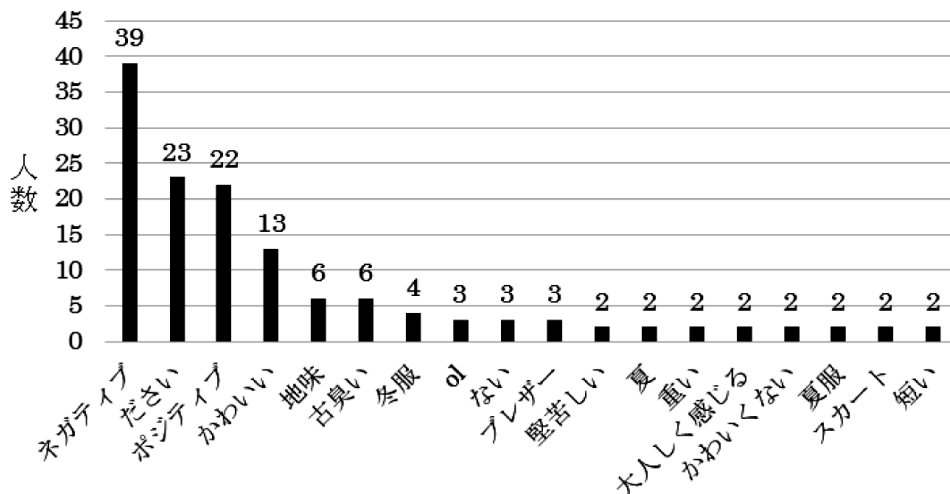


図6-2. 高校時代の制服の印象 (女子 N=100)

な回答があったと考えられる。

感性 Web カテゴリ図とクロス表を見ると、90のカテゴリ(単語)のうち、『ポジティブ』な表現と判断された文に含まれていた感性用語が39(43%)、『ネガティブ』な表現と判断された文に含まれていた感性用語が54(60%)となり、制服には『ネガティブ』な印象を持つ人が多いとわかった。「かっこいい」、「好き」、などの良いイメージを持っている学生もいたが、多くの学生はあまりよくない印象を持っている(図7-1・図7-2)。地味で古く、ださいなどの制服に対する印象が、カバンや靴を派手にする結果につながるのわかる。

### 3-7 余暇時間の過ごし方

高校生の生活スタイルを、平日に学校で過ごす時間に着る制服を On Time、平日の放課後と土・日・祝日の休日の制服を着ていない余暇時間を Off Time と捉え、「問7. 余暇時間はどのように過ごしていますか」について、カテゴリ出現用語ごとの類義語の整理を行い、最終的に出現回数15回

以上の上位29カテゴリ用語を選定した。余暇時間の過ごし方は、上位から順に、男子は「寝る・睡眠」(34.4%)、「読書」(31.3%)、「テレビ」(25.8%)、「インターネット」(19.5%)、「ゲーム」(18.8%)、「勉強」(17.2%)、女子は「寝る・睡眠」(41.3%)、「音楽鑑賞」(35.2%)、「テレビ」(30.6%)、「友人」(29.6%)、「遊ぶ」(23%)、「買い物」(23%)という結果になり、余暇時間は一人で過ごす学生が多い

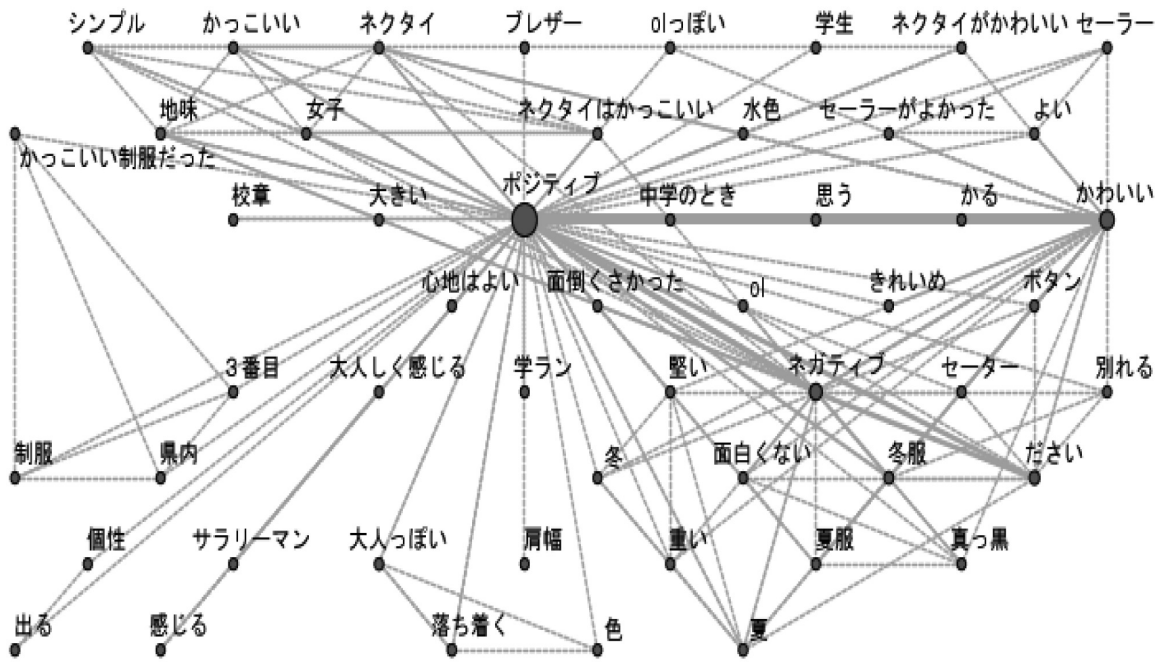


図 7-1. 高校時代の制服の印象

ポジティブ（感性分類）

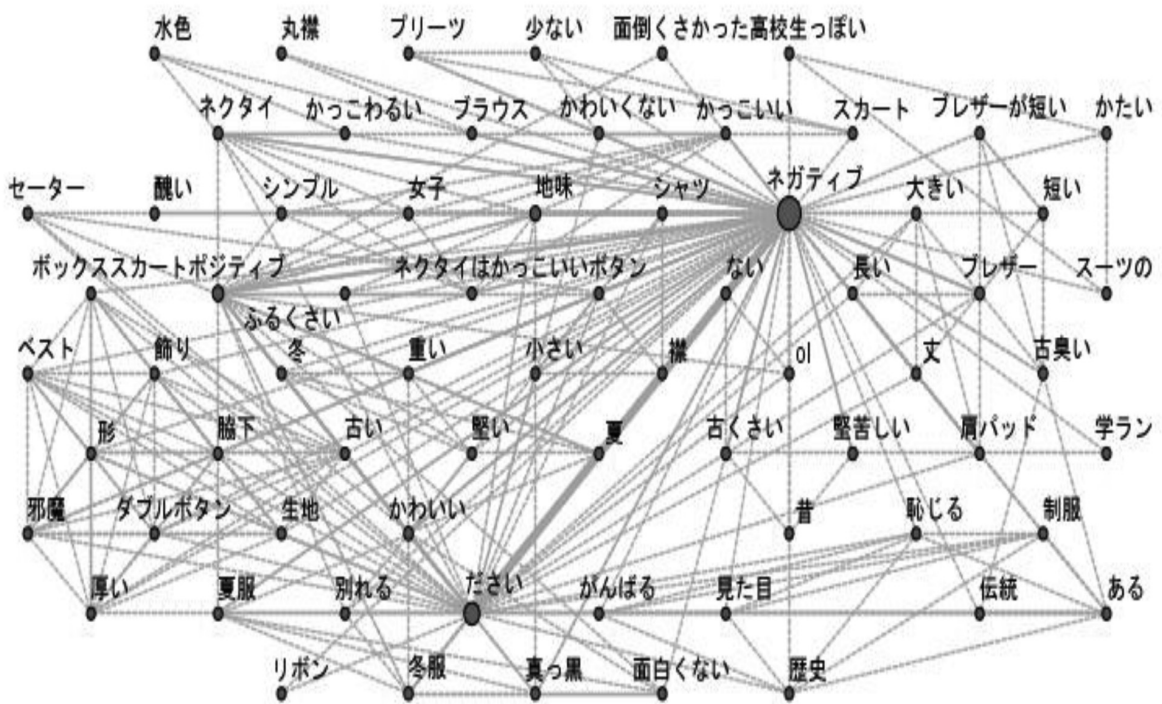


図 7-2. 高校時代の制服の印象

ネガティブ（感性分類）

ということがわかった。

図 8 は余暇時間の過ごし方に関する男女別のカテゴリ出現回数を示した。余暇時間の過ごし方について、男女ともに有意差のないカテゴリ（17出現用語）を見てみると、1位「寝る・睡眠」女子（41.3%）男子（34.4%）、2位「テレビ」女子（30.6%）男子（25.8%）、3位「読書」女子（21.9%）男子（31.3%）

であった。

男女間で有意差のあるカテゴリの中、「勉強」男子（17.2%）女子（9.2%）、「ゲーム」男子（18.8%）女子（6.6%）は男子の方が女子より高かった（図 8）。一方、「音楽鑑賞」男子（10.2%）女子（30.1%）、「友人」男子（14.8%）女子（29.6%）、「買い物」男子（10.9%）女子（23.0%）、「遊ぶ」男子（13.3%）



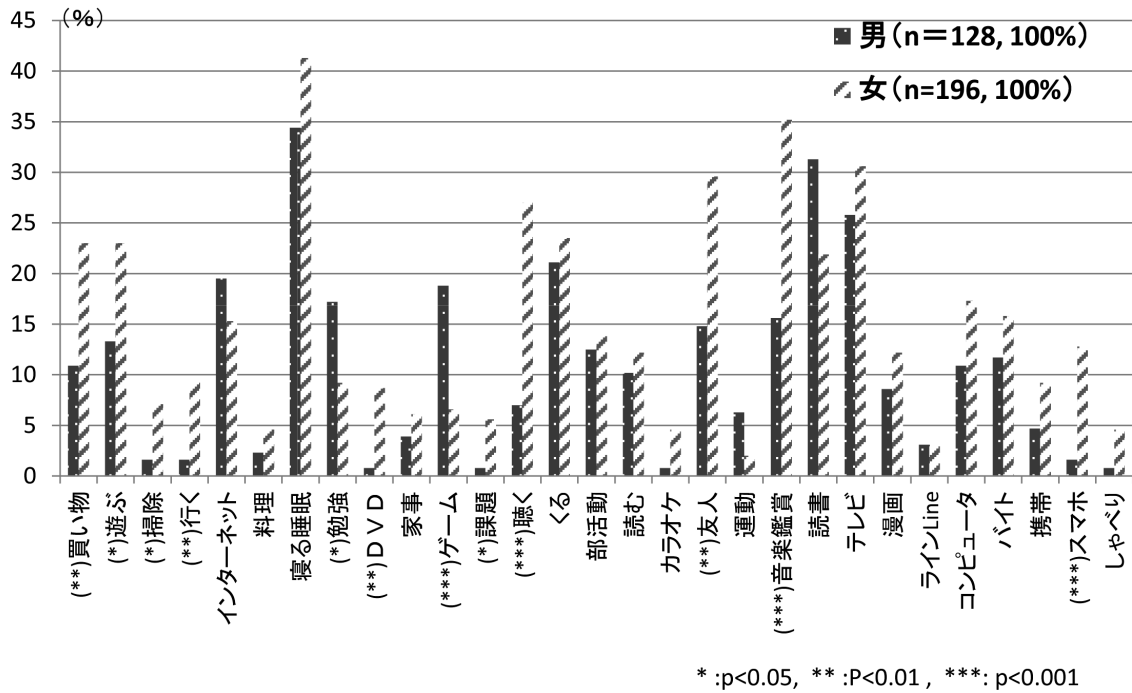


図8. 男女別の余暇の過ごし方 (カイ二乗検定)

女子 (23.0%) などのカテゴリは、女子の方が男子より高かった (図8)。このことは女子の方が男子よりも余暇の過ごし方が多方面において積極的であることが示された。

図9は余暇時間の過ごし方に関するカテゴリ用語の散布図 (男女込) を示した。散布図の横軸の右側は「Out door」、左側は「In door」、縦軸の上は「他人と」、下は「一人で」と解析した。右上は外で他人とおしゃべりしたり、遊んだりしている。右下は外でバイトしたり、ゲームをしたり、ネットサー

フィンをしている。左下は一人で室内で読書、音楽鑑賞、寝る、コンピュータをしている。上左は室内でテレビを見たり、携帯やスマホでコミュニケーションを取ったり、他人と関わりを持っている。このように余暇の過ごし方を4つのパターンに分類できる。

図10は当時 (2014年) の制服販売ショップである。制服のスタイルイメージがわかるように示した。

#### 4. まとめ

自由記述で回答を求めたテキスト (言葉) データは従来は分析しにくかったが、近年はテキストマイニング分析手法を使い、大量の自由記述データのアンケート分析が可能となった。

本研究はテキストマイニング手法を用いて、自動的に出てくるキーワードの出現頻度に、類義語の整理を行い、分析者としての視点で適切な分析結果を視覚化することができた。また、回答データ数や回答内のバリエーションが多

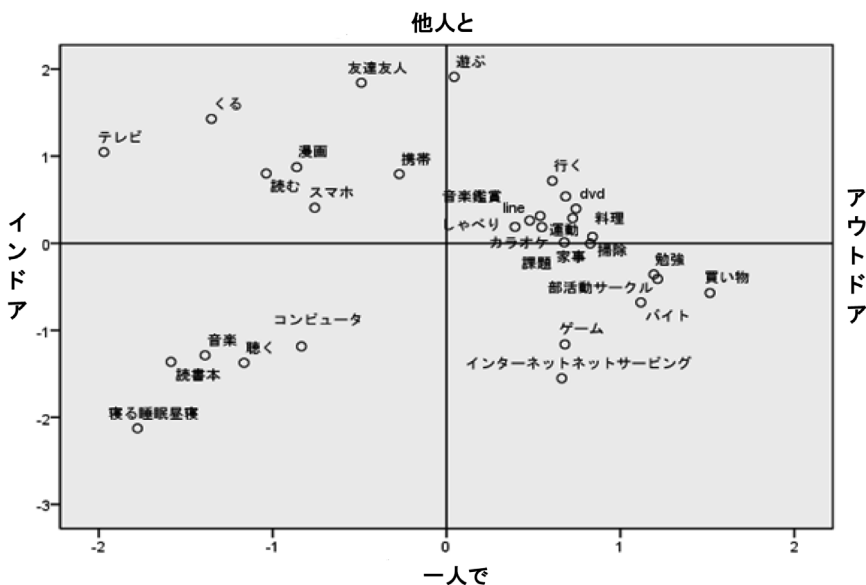


図9. 余暇時間の過ごし方 (男女込 N=324)



図10. 富山市総曲輪通りの学生制服ショップ

写真撮影：孫、2014年3月

く、十分な結果が示された。この結果を基に高校生の制服行動に関する測定尺度項目を作成することができる。また、現代の高校生の制服行動の実態を理解するための有意義な研究になると考える。

本研究では、富山県の大学生に、高校時代の制服行動についての本音、自己表現意識を自由回答形式で書いてもらい、性別の差異を明らかにした。

(1)「制服の校則」については、女子はスカート丈に関する校則、男子は、開けてよいボタンの数やズボンの履き方に関する校則が強く印象に残っていた。制服によって、その生徒がどの学校に属しているか一目でわかり、制服の着こなし方がだらしないと、学校自体のイメージもだらしなく感じてしまう。そのため制服に関する校則は厳しく設定されていたと考えられる。

(2)「制服を着用する際に個性を出すためにしていたこと」については、制服自体が紺色や黒色などの暗い色合いが多いため、派手な色合いの雑貨を使用したり、髪型を変えるなどで自分らしさを表現している。

(3)「制服を着て学校へ行くときの感情」については、私服を選ぶ必要がなく楽だと感じている人が多かった。また、制服は高校生にとって、気を引き締め緊張感をもたらす、帰属意識を持たせるための重要な着装と考えられる。

(4)「制服の印象」については、「ださい」「古臭い」「地味」とネガティブなものが多いことがわかった。女子の評価が男子より低く、不満を抱えていることが明らかになった。調査対象者は石川県と富山県の高校出身学生が多いことを考えると、制服のモデルを変えることも視野に入れる必要があ

るように考える。大学生の私服の調査では被服行動においては名古屋・京阪神・九州間で地域差が見られなかった。しかし、短期大学・四年制大学・専門学校のそれぞれの学校間では差異がみられた<sup>[10・11]</sup>。

(5)「余暇の過ごし方」については、女子学生は余暇時間も活発に行動しているのに対し、男子学生は家で、一人で静かに過ごしている人が多いことがわかった。多方面で女子がより積極的であった。本研究の一部は第66回日本家政学会大会（福岡県北九州市2014年5月）にてポスター発表を行った<sup>[4]</sup>。

#### [謝辞]

本質問紙に協力してくださった大学生皆様にお礼を申し上げます。また、元林理佳さんにはデータの整理など協力を頂いたことに感謝の意を表します。

#### 引用文献

- [1] 小林茂雄；装いの心理，(株)アイ・ケイコーポレーション，15（2003）
- [2] 牛腸ヒロミ；ものとしてところとしての衣服，NHK出版，放送大学教材（2011）
- [3] 岡田宣子；ビジュアル衣生活論4章装いと健康，KENPAKUSHA，24頁，（2010）
- [4] 孫珠熙，元林理佳；テキストマイニングによる高校制服着用時の感情の可視化，日本家政学会第66回大会（会場：北九州国際会議場）研究発表要旨集，59（2014.5）
- [5] 渡辺澄子，泉加代子；服装によって生起する多面的感情状態（第1報）着衣経験に基づく

- 多面的感情状態の構造, 繊維機械学会誌47, 2, 23-29 (1994)
- [6] 内田治, 川嶋敦子, 磯崎幸子; SPSS によるテキストマイニング入門, Ohmsha, (2012)
- [7] 森伸之; 東京女子高制服図鑑 (159校完全収録, 私たちの着こなし おしえたい) 1994年度版, 弓立社 (1993. 12)
- [8] 森伸之; 東京女子高制服図鑑 (都内151校完全収録), 弓立社 (1975. 7)
- [9] 渡辺麻友制服図鑑 最終の制服, 集英社 (2013)
- [10] 孫珠熙・小野幸一; 女子学生のファッション意識と女性雑誌との関連, ファッションビジネス学会論文誌, 15, 67-78, (2010)
- [11] 小野幸一, 孫珠熙, 宮武恵子; ファッションを学んでいる女子学生の意識・行動に関する研究, -名古屋, 京阪神, 九州の3地域間の比較-, ファッションビジネス学会論文誌, 15, 57-66, (2010)
- Textiles*, December 2015, 2:15, First online: 02 September
- Kim Johnson, Sharron J Lennon, Nancy Rudd (2014): Dress, body and self: research in the social psychology of dress, *Fashion and Textiles*, Vol. 2, Issue 1
- Kyeonsung Min, Soozin Park, Yuri Lee (2014). Waiting in line at a fashion store: psychological and emotional responses. *Fashion and Textiles*, 1:21, doi:10.1186/s40691-014-0021-6
- Kyunghwa Chung, Chorong Youn, Yuri Lee (2014). The influence of luxury brands' cross border acquisition on consumer brand perception. *Clothing and Textiles Research Journal*, 32(4), 219-234. doi: 10.1177/0887302X14538117 SSCI
- Namhee Lee, Yun Jung Choi, Chorong Youn, Yuri Lee (2012), Does green fashion retailing make consumers more eco-friendly? The influence of green fashion products and campaigns on green consciousness and behavior, *Clothing and Textiles Research Journal*, 30(1), 67-82. SSCI.
- Jung Ha-Brookshire, (2015): Global sourcing: new research and education agendas for apparel design and merchandising, *Fashion and*

## 参考文献

## 要旨 (Abstract)

本研究は制服が着用者の感情や行動に及ぼす影響力に着目し、高校での制服着用時の様子について大学生に質問し、被服心理学的立場で検討を行った。

- (1) 「制服の校則」については、女子はスカート丈に関する校則、男子は、開けてよいボタンの数やズボンの履き方に関する校則が強く印象に残っていた。
- (2) 「制服を着用する際に個性を出すためにしていたこと」については、制服自体が紺色や黒色などの暗い色合いが多いため、派手な色合いの雑貨を使用したり、髪型を変えるなどで自分らしさを表現している。
- (3) 「制服の印象」については、「ださい」「古臭い」「地味」とネガティブなものが多いことがわかった。女子の評価が男子より低く、不満を抱いていることが明らかになった。
- (4) 「学校へ行くときの感情」については、私服を選ぶ必要がなく楽だと感じている人が多かった。また、制服は高校生にとって、気を引き締め緊張感をもたらす、帰属意識を持たせるための重要な着装と考えられる。

(2015年10月20日受付)

(2015年12月9日受理)